

【報告】

COVID-19 による日本人学生の派遣留学への影響

-日本人学生の声を中心に-

The Impact of COVID-19 on Study Abroad for Japanese Students:
Exploring Japanese Students' Voices

大阪大学 国際教育交流センター 中野 遼子

大阪大学 国際教育交流センター 石倉 佑季子

大阪大学 国際教育交流センター 近藤 佐知彦

NAKANO Ryoko (Center for International Education and Exchange, Osaka University)

ISHIKURA Yukiko (Center for International Education and Exchange, Osaka University)

KONDO Sachihiko (Center for International Education and Exchange, Osaka University)

キーワード：派遣留学、COVID-19、緊急アンケート調査

1. はじめに

現在、COVID-19 感染拡大の影響を受け、世界中の留学交流が停止し、学生の留学機会が奪われる事態となっている。日本の大学でも留学中の学生を緊急帰国をさせ、諸事情から帰国できなかった学生は留学先で不安な生活を送っている。さらに、これから留学を予定している学生や希望していた学生は今後の目処が立たず留学への不安を募らせていることが予想される。筆者らは留學生教育学会が実施した緊急調査の運営に協力し、日本人学生、留學生といった学生当事者に加え、受け入れ業務、派遣業務それぞれに取り組む教職員を対象としたアンケートの実施主体となった¹。本稿ではその中でも日本人学生から得られた「生の声」について報告し、それに基づいて留学交流関係者が考えねばならない問題点について提起する。

本稿では、まず、COVID-19 が世界中の大学にどのような影響を与えているのかを概観する。そして、アンケート結果について述べ、特に記述回答を中心に回答者の現状を紹介する。そこから、今後派遣留学のために必要な支援について記述する。

¹ 留學生教育学会（2020）「【緊急協力依頼】新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査（4月20日）」<https://jaise.org/archives/508>（2020/6/2 閲覧）

2. COVID-19による世界の留学の現状

日本ではこの春来日できない留学生が続出し、留学関係者はその対応に追われたが、世界でも大学や留学生が翻弄されている²。現段階では、今後の留学交流再開について見通しが立たず、これからの数年間は混乱が続くことが懸念される (Marginson, 2020)。なかでも留学生の学費を高く設定している米国では、オンライン授業に満足できない留学生によりデモや訴訟が起こり、同様に留学生の学費に依存する英国でも今後の留学生数の激減と大学運営への悪影響が問題視されている²。Altbach & de Wit (2020)によれば、新型コロナウイルスの影響を受けて、現在世界中の多くの大学でオンラインによる授業を提供するといった措置が取られた。ちなみに本アンケート回答者からも遠隔授業に関するコメントが散見され、留学とオンラインの関係は今後深く考えなければならない問題であると思われるが、それについては稿を改めることとし、本報告では深くは立ち入らない。

3. 日本人学生アンケートの結果

3.1 回答者の基本情報

本アンケートは、留学生教育学会が関連団体にも呼びかけ、学会員やその関係者に依頼しメーリングリストなどを使用して回答者を集めた。2020年4月20日から開始し、5月7日に留学生教育学会のホームページでの中間報告後、5月31日まで回答の収集を続けた³。最終的に様々な形で留学を志すもしくは留学中の日本の学生（一部は正規課程に在籍する外国人）317人からの回答が集まった。なお自己申告による回答の一部に誤差・ブレが生じている可能性もあるが、特段の修正は施していない。

男女比は、表1が示すように女性の回答者が72%を占めた(表1)。回答者の学校種別は私立大学(56%)の回答者が最も多く、次に国立大学(37%)、公立大学(2%)と続いている(表1)。その他の11名に関しては、社会人や高校生であった。学校所在地については、関東地方(55%)と関西地方(30%)の回答者が大半であり、中国・四国・九州地方からの回答者はいなかった(表2)。

次に、回答者の専攻・専門については外国語系専攻の学生が半数(51%)を占め(表3)、その他については、教育学、農学、リベラルアーツ、航空などの記述が見られた。

また、回答者が希望・予定あるいは実施中／実施した留学の形態は、交換留学が最も多く68%に上る(表5)。従って、本稿の多くの記述が大学等で留学業務に当たる当事者が多くのリソースを投入する「交換留学」に関連する事項となっている。

なお、新型コロナウイルスの情報を得るための情報源に関しては表4に示したが、学生が情報源として最も重視するのは、家族や友人の意見で、次いで、日本の学校やその教職員、それに続いて、日

² 『『知』の交流 阻むコロナコロナ侵食 留学生を翻弄(時時刻刻)』『朝日新聞』2020年5月24日、朝刊、p. 2

³ 中間報告については、以下を参照。留学生教育学会(2020)「中間報告(更新版)・新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査(5月7日)」<https://jaise.org/archives/566> (2020/5/7 閲覧)

本のメディアでの報道、留学先の学校やその教職員、という順番となった。これは回答者の7割が、留学の成否については派遣元となる日本での在籍大学の意向に左右される交換留学の学生であるとの事情を反映したものとも考えられる。

表1 回答者の性別と学校種別

	女性	男性	その他	合計
国立大学	82	36	0	118
公立大学	5	2	0	7
私立大学	133	45	1	179
高等専門学校	1	0	0	1
短期大学	1	0	0	1
その他	6	5	0	11
合計	228	88	1	317

表2 学校所在地

北海道・東北	13
関東地方	175
中部地方	36
近畿地方	93
中国地方	0
四国地方	0
九州地方	0
合計	317

表3 回答者の専攻と留学形態

	学位留学	研究留学	交換留学	認定留学	3ヶ月未満の短期留学	日本の学校を休学しての私費留学	ワーキングホリデー・イン ターンシップ	語学留学	その他	未回答	合計
外国語系	13	0	109	4	4	1	6	16	3	5	161
人文系（文学、哲学など）	4	0	13	0	1	0	0	2	0	0	20
社会科学系（法学、経済学、社会学など）	2	0	46	0	0	1	1	1	1	3	55
ビジネス系（商学、ビジネスなど）	2	1	18	0	0	0	1	2	0	1	25
理工系	2	3	12	0	1	0	0	2	0	0	20
医歯薬保険系	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	4
ホスピタリティ系	0	0	2	1	0	0	1	2	0	1	7
健康・スポーツ系	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
芸術系	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4
その他	1	0	8	3	2	0	1	2	2	0	19
合計	26	5	211	9	9	2	11	28	6	10	317

表4 回答者の留学状況と情報源

	家族や友達の意見	日本の学校やその教職員の意向	留学先の学校やその教職員の意向	日本のメディアでの報道	留学先のメディアでの報道	日本語でのSNS (Facebook, Twitter, Instagram等)	留学先のコミュニティ・留学生会などからの情報	その他	合計
近い将来留学を希望している	17	19	1	2	0	0	0	1	40
留学の予定が決まっている	47	46	16	13	2	3	1	0	128
現在留学（海外滞在）中である	6	1	0	3	0	0	0	0	10
学習を中断して留学から帰国した	48	41	8	10	2	1	0	0	110
すでに学習を終え留学から帰国した	4	2	1	2	0	0	0	1	10
その他	7	8	1	3	0	0	0	0	19
合計	129	117	27	33	4	4	1	2	317

3.2 留学に関する回答者の現状

ここでは、回答者の留学の状況について概観する。まず、回答者の40%が留学予定者であり、34%が留学を中断して帰国した学生であった（図1）。そして、近い将来留学を希望している学生が12%、現在留学中とすでに留学を終えた者が各3%であった。その他については、「現在留学先大学に申請中」や「留学予定だったが中止・延期」となったという記述が多く見られた。

次に、留学に対する考えを聞いた質問では、留学希望者や予定者の83%が留学への積極的な意思を示していた（図2）。時期の延期や短縮は9%、中止したい学生は1名に留まっている。留学を熱望する学生が積極的に回答するなどのバイアスがかかった可能性はあるが、多くの学生が留学を経験したいと感じている傾向は看取できる。留学中の学生については、10名が本アンケートに回答した。うち現在交換留学中の9名が留学を続けたいという意思を示したが、1名は帰国して留学を中止したいと考えていた（図3）。なお、この学生一名は「研究留学中」であり、後に触れるが家族は「状況にかかわらず、留学をして欲しい」というご意見である一方で、本人にとっては外国での生活・健康に本人が最も不安を感じていることがうかがわれた。

そして、留学を中断した110名の学生については、「今すぐにでも留学を再開したい」と「状況が落ち着いたら留学を再開したい」が50%を占めたが、同様に「今回は留学を中止し、将来別の留学をしたい」（30%）と「もう留学はしたくない」（10%）という回答もあり意見が分かれた（図4）。留学に後ろ向きになった理由として、「就職や卒業のことを考えると在学中にもう一度留学することは難しい」、「留学はしたいが、経済的な問題がある」という回答があり、再開したくてもキャリアプランは金銭的に再開不可能という状況が浮かび上がった。

図1 回答者の留学の状況

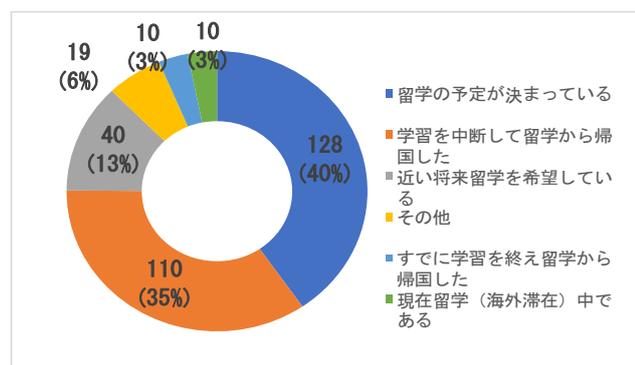


図2 留学希望者・予定者の留学に対する考え

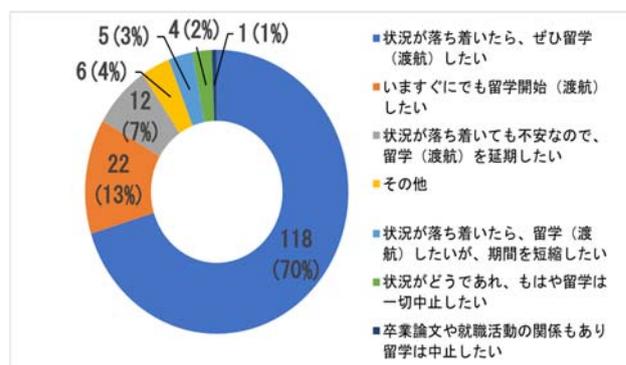


図3 留学中の学生の考え

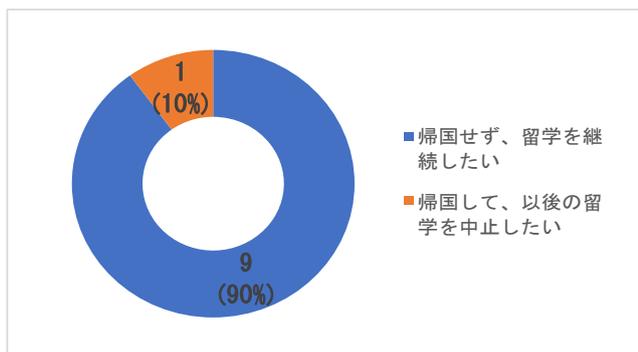
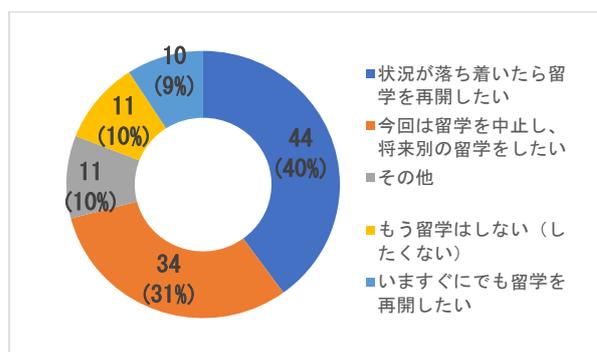


図4 留学を中断した学生の考え



家族が回答者の留学についてどのように考えているのかについても質問項目に含めた(図5)。その結果、パンデミック下でも80%の家族が子どもの留学を肯定的に捉え応援している様子が見え、学生たちも留学を後押しされているように感じているように思われる。一方、「留学を中止(中断)して欲しい」という要請を家族から受けている学生は、予想外の4%の低い水準にとどまった。家族の意見は全体的に子弟の留学実施に向けて肯定的な傾向にあり、特に留学予定者と現在留学中の回答者の家族が「状況に関わらず留学して欲しい」と積極的に支援している様子が見える(表5)。

3.3 回答者が現在一番困っていること

次に、回答者が現在何が一番不安・困難を感じているかについて見ていく(図6)。まず、最も困難に感じていることは、「進路(進学・就職)」であり全体の半数(50%)を占めていた。次に、「学業(単位取得)」(15%)、「金銭」(11%)、「生活・健康」(7%)、「困っていることはない」(7%)と続いている。「その他」については、卒業の延期、ビザ取得の不安といった回答が多かった。

今後、留学希望学生に対しては、進路や学業に関する説明や支援が必要になることが示唆される。そして、留学状況別でいうと、希望学生や予定学生の傾向としては進路、学業の順に困難を感じていることがわかるが、留学を中断した学生は特に金銭に関して不安を感じている割合が多いといえるだろう(表6)。次節では、どのような記述が見られたのか、具体例を挙げてみていく。

図5 学生の家族による留学への考え

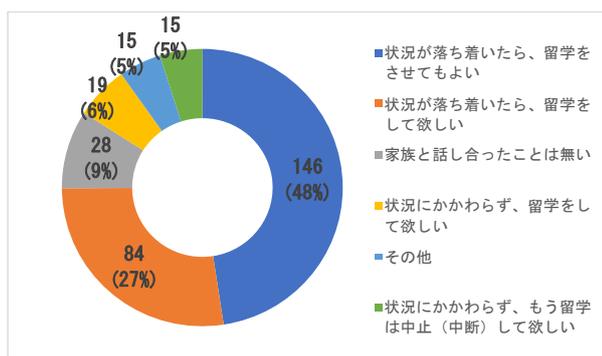


図6 現在1番困っていること

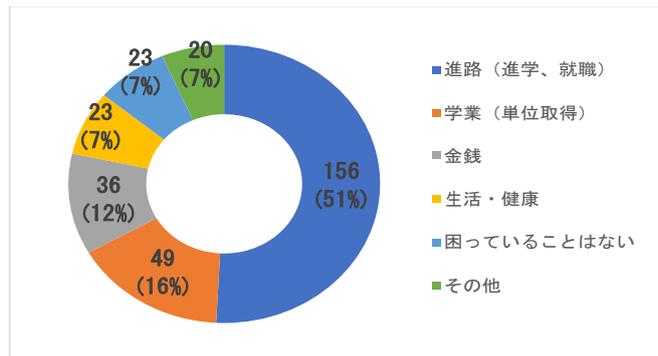


表5 留学の状況と家族の考え

	状況にかかわらず、もう留学は中止（中断）して欲しい	状況が落ち着いたら、留学をさせてもよい	状況が落ち着いたら、留学をして欲しい	状況にかかわらず、留学をして欲しい	家族と話し合ったことは無い	合計
近い将来留学を希望している	1	23	9	0	7	40
留学の予定が決まっている	5	58	42	13	6	124
現在留学（海外滞在）中である	1	0	0	5	0	6
学習を中断して留学から帰国した	7	55	25	1	15	103
合計	14	136	76	19	28	273

表6 留学状況と困難

	進路（進学・就職）	学業（単位取得）	生活・健康	金銭	困っていることはない	その他	未回答	合計
近い将来留学を希望	22	4	4	4	5	1	0	40
留学の予定が決まっている	78	12	12	8	5	13	0	128
現在留学（海外滞在）中である	2	3	1	2	1	1	0	10
学習を中断して留学から帰国した	44	28	3	20	11	4	0	110
すでに学習を終え留学から帰国した	0	0	0	0	0	0	10	10
その他	10	2	3	2	1	1	0	19
合計	156	49	23	36	23	20	10	317

3.4 回答者が一番困っていること具体例

本アンケートでは、回答者が一番困っていることについて自由記述でも回答をさせている。本節ではそれを回答者の留学状況別に分けて整理をした。紙幅の都合上、特に不安を抱えている、(1)留学希望学生、(2)留学予定学生、(3)留学中の学生、(4)留学中断学生による記述からいくつかをピックアップして紹介する。

3.4.1 留学希望学生の具体例

まず、留学を希望する学生にとっては、「留学の見通しが立たない」、「入学時からしてきた留学準備が無駄になる」、「留学の期間を短縮するかどうか」、「就職活動の開始時期をいつにするか」という将来の留学に関する漠然とした不安を訴える回答が多かった。

- 留学に行けるかわからない状況の中で、いつ就職活動をしていつ卒業するのか、見通しを立てることができない。(国立大学)

- しっかりと準備してきたことが無駄になるのではないかなど不安でいっぱい。(国立大学)
- 約1年間の交換留学の予定を短期に変更して卒業に支障が出ないようにするのか、もしくは期間はそのまま帰国して就職浪人して卒業するか悩んでいる。(私立大学)
- 3年生の夏から留学の予定だったので、留学ができるかがはっきりしないと、就職活動の開始時期もわからず何もできない。(国立大学)
- 留学時の経験を活かし、将来就きたい仕事を決めようと思っていたため、今、将来への不安が大きい。(私立大学)

3.4.2 留学予定学生の具体例

留学を具体的に予定する学生は「留学を実施するか、それとも留学をやめて就職活動を始めるか」など、具体的で切迫した不安を抱えている。特に留学予定学生は、3年生もしくは4年生で、帰国後すぐに就職活動や採用試験等を控えている学生が多く、「この機会を逃したら後がない」と、より深刻な状況に置かれている。中には、「人生設計が覆された、狂った」と感じる回答者も多くいた。

- 現在新3回生で、一応9月からの交換留学の内定を学校からもらっています。留学を無理だと見通して、就活を考えなければならないのかすごく悩みます。長い間頑張って準備して、勝ち取った留学枠なのでとても諦めきれないし、悔しいです。(国立大学)
- 大学が課す語学要件を満たすために、必死に勉強し、留学の権利を得ました。現在4年生なので、留学に行けなければ就職しなければならない(国立大学)
- 延期や中断となると、就活を今始めないといけなくなる。また、大学生活で1番経験したい留学が出来ないとなると、はっきり言ってなんのために大学にきたのかがわからなくなってしまう。(国立大学)
- これまで計画していた、留学も含めた就活などの計画がずれてしまった。(国立大学)
- 元々、留学を含めて5年で、大学を卒業するつもりでした。なので、留学が中止になると、公務員試験の準備を大幅に再調整しないといけない。(国立大学)
- 先輩たちの留学がずれると、それ以降にもガタが来る。1度ずれるともうしばらく数年は直らない。(公立大学)

最後の学生については、卒業のためには留学を必須とする課程に在籍する学生のように思われる。国境を越えた自由な交通と比較的安全な世界の環境を大前提として教育課程を構築してきた大学等の留学生教育関係者に対し、COVID-19は重い課題を突きつけてきた。この回答者は「今年留学を断念させられた学生」と「これから留学を希望・予定する学生」の利益が相反しかねないことを敏感に感じ

取っているようだ。

3.4.3 留学中の学生の実例

留学中の学生にとっては、外国に滞在していたとしても、外出が不可能など行動が大きく制限されている生活自体への不満が大きかった。

- 入国制限ギリギリで入国したものの、授業がオンラインで、日本でもできることをやっているのに自分が何をしているのか分からなくなる。(国立大学)
- 仲良くなった他の国の留学生が帰国してしまい、友達と交流する機会が減ってしまったこと。(国立大学)
- 引越す直前で、ホテル滞在していたのだが、コロナで新居に入れなくなり、滞在費が高い(国立大学)

3.4.4 留学中断学生の実例

留学を中断させられた学生は、他の回答者と比較してより具体的で切実な問題を抱えている。以下、「進路」、「学業（単位取得）」、「金銭」の不安の順に見ていく。

<進路に関する不安>

留学中断者は、進路に関しては具体的な計画を立てていたが、留学中断により計画通りに進められないことへの不安を訴えていた。

- 自分の計画が全て崩れてしまった。1年留学が半年留学になりやりたいことの3分の1しかできなかった(私立大学)
- 3週間は現地での留学生生活を過ごすことが出来たが、就職活動などの関係で留学の再開を諦めた(私立大学)

<学業（単位取得）に関する不安>

学業に不安を感じる学生については、留学中に取得予定だったが単位が十分に取れず、卒業に向けての計画が狂ったという回答が多かった。そのため、帰国後に余分に授業を受講しなければならず忙しくなり、就職活動との兼ね合いを心配する回答が見られた。

- 留学先の学校で20単位取れるはずが取れず、留学で英語力を上げて帰国後、日本での授業に臨む予定だった。私の学部では、TOEFLである程度点数を取らないと次の学年のいくつかの授業が取れず、それを履修しないと卒業できない。(私立大学)
- 留学することによって免除される単位が中止になったため免除がなくなってしまい、履修

単位の予定が完全に狂ってしまって立て直しが大変です。(私立大学)

- アメリカの大学で留学予定の半分の授業は受け、成績をもらっているにも関わらず、出身大学での単位変換が当初貰える予定であった単位の4分の1も貰えないこと。(私立大学)

<金銭的な不安>

特に深刻だと感じた問題は、留学中断を余儀なくされた学生の金銭問題であった。

- 留学先での家賃について、交渉したが契約満期まで支払えと言われ、住んでもいないのに払い続けている。(国立大学)
- 寮の契約を破棄することができず、留学中断後の今も毎月の家賃を支払っている。メールで問い合わせても返事がないため、どうしようもできずにいます。(国立大学)
- 緊急帰国により、高額なフライトを取らざるを得なかった。また、帰国後2週間隔離のために東京のホテルを使用しているため、ホテル代もかかっている。(公立大学)
- 帰国したもののアルバイトができないため、就活にかかる費用や生活費などが厳しい状況下にある。(私立大学)

上記のように、帰国したにもかかわらず留学先の住居費を払い続けていたり、帰国に必要な高額の航空機代、2週間隔離期間のホテル宿泊代等、予定外の出費を余儀なくされた様子がうかがえる。また、このような余分な出費のために、留学の再開だけでなく、現在の生活および就職活動の資金も不足しており、非常に切迫した状況に置かれていることがわかる。

3.5 日本の政府や大学に期待する海外留学に関する支援

最後に、回答者には、「世界規模で新型コロナウイルスが流行している中、海外留学について政府や学校などからどのような支援がされるべきだと考えますか」という質問に対して、自由記述式の回答をもらった。学生が大学等に期待する支援を分類すると、「留学の保証」、「単位取得に関する支援」、「オンライン授業やイベント」、「迅速な情報提供」、「金銭的援助」の5点に分けることができた。なお、以下の記述については、回答者の7割が交換留学の学生であることを考えると、今後大学等が留学交流事業を運営していく上で、リスク管理と学生間の公平、悪影響を受けた学年・学生への救済と、それに続く学生たちの負担配分など、いくつかのポイントについて学生からの示唆的な声を集めることができたと考えている。

3.5.1 留学予定学生や留学中断学生への留学の保証

本項目については、留学予定学生や留学中断学生から、時間とお金をかけて準備し機会を掴んだ交換留学の権利・機会を保証してほしいという要望が多かった。また、留学の延期や保留を求める声が

多く、中止だけは避けてほしいという切実な願いも多くみられた。

<留学の権利の保証>

- 留学内定者、予定者だった人の留学機会の権利を保証してもらうこと。(国立大学、留学予定者)
- 大学側には留学合格者一人ひとりの希望通りに留学が行えるよう最善の方法を見極め判断していただきたいと思います。(私立大学、留学予定者)
- 交換留学を延期してほしいです。留学を準備することは頑張りましたから、その努力を無駄にならないように延期をぜひ考えてください。(国立大学、留学予定者)
- 頑張って交換留学の内定をもらったので、次の募集では少なくとも優遇はして欲しいと思います。頑張って手続きしてきた、勝ち取った枠なのにもしこのまま無かったことにされたら納得できません。(国立大学、留学予定者)
- 私にとって最も悲しいことは、留学の取り消しや中止です。頑張って手にした交換留学の機会を剥奪されてしまうのが最も望まれてないことだと思います。(国立大学、留学予定者)
- 国に関わらず全ての学生の留学をキャンセルする大学があるそうで、それぞれの出発時期や国の事情が違うのにそれをまとめてキャンセルするようなことはやめてほしいと思っています。(国立大学、留学予定者)

<留学の代替プラン>

- まず現地に行って勉強することが最大の目的なので、それができない場合には何か代替の措置をとるべきだと思う。(国立大学、留学希望者)
- 留学が延期・中止になった場合、卒業が遅れないように大学には授業関係などで柔軟に対応していただきたい。また、別の留学プラン、例えば半期だけでも留学できるようにするなど、色々な可能性を作っておいていただきたい。(国立大学、留学予定者)
- 交換留学で大学の内定が出ている人は、今年行けない場合来年行けるようにすべきだと思います。また同じ言語圏であれば、他の大学に振り替えで留学を行けるようにしてほしいです。(国立大学、留学予定者)
- もし交換留学が中止となり、私費留学に切り替えなければならないとなった時に、交換留学よりもかなり費用がかかってしまうことが悩みである。(国立大学、留学予定者)

以上のように、交換留学の中止ではなく延期を訴える声は高い。延期であるとすれば、申請手続きの免除など、交換留学決定者には「既得権」があって然るべき、と主張する意見がみられた。今後は「既得権」が次年度以降の派遣計画に及ぼす影響なども含め、様々な要因を考慮する必要がある。た

だ、今年涙を呑んだ学生に対しては、まず彼らの希望を傾聴する姿勢を示すことは重要であろう。

3.5.2 単位取得に関する支援

次に、単位取得に関する支援についての要望も見られた。

- 中止された人をしっかりサポートして欲しい、認められる単位もあると思う。全く単位が認められないのはおかしいと思う。(私立大学、留学中断者)
- 単位認定についてなど少しでも早く情報を伝え、不安を取り除くような対策または支援が必要と思った。(私立大学、留学中断者)

前節で、留学中断のために予定していた単位の取得ができずに帰国した事例からも、単位互換については所属大学側による何らかの支援がないと支障が出る学生もいることがわかる。

3.5.3 オンライン授業やイベント

次に、このような時期だからこそ、オンラインの授業やイベントを求める声も見られた。

- 例え留学予定国に渡航ができなくても、オンラインで学ぶ機会を保証するような支援を各国ないしは各海外大学に、政府や学校から呼びかけて頂けないかと思う。(私立大学、留学希望者)
- オンラインでの国際交流のイベントの開催や、オンラインでの英語の特別講習など(私立大学、留学中断者)

パンデミックの影響でたとえ渡航できなくても、せめてオンライン授業により海外の大学の授業を受講したいと考えている切実な声が寄せられている。すでに対応している海外の大学もあり、今年度は安全面に配慮してオンライン授業の提供による交換留学代替プランが増加すると思われる。反対に、「現地に行って勉強することが最大の目的(国立大学、留学希望者)」という声もあるため、様々なプランを考えておく必要があると思われる。また、「オンラインでの国際交流のイベント」に関しては、今後、日本でも留学生を受け入れる際に参考になるだろう。

3.5.4 金銭的援助

そして、留学の状況に関係なく様々な回答者から寄せられた要望として、金銭的支援があり、切実な訴えも見られた。特に留学中断者の中には、前述のように、帰国後も留学先の住居費を払い続けて

いる例も複数あった。

- 奨学金などは、もし留学がなくなっても権利だけは保持させて欲しい。一年後など、一度受かった奨学金は時期がずれても受給したい（国立大学、留学予定者）
- 現在アルバイトがひとつもできていない中で、留学に行くには金銭面で不安が大きい。奨学金制度を充実させてほしい。（国立大学、留学予定者）
- 飛行機代など留学先でかかるお金は今まで通り同じで、自己負担でいいと思うが、留学先でかかる様々な保険料を少し負担してもらえたら大変助かると思う。（私立大学、留学予定者）
- 帰国要請をすると決めたからには、安心して帰国できる環境をまずは整えるべきだった。帰ってこいという指示だけ出すのは、もっとも無責任な対応だと思う。帰国便の手配、帰国後の隔離場所、その移動手段、学費負担など経済的かつ安全上の配慮をすべき。（国立大学、留学中断者）
- わたしは向こうに留学してからまず寮で隔離され、授業も受けさせてもらえませんでした。やっと授業に出れると思っていたのに帰国の指示を受けて、保険や留学の準備でもお金はかかりました。なのに何もしないで帰ってきたんです。そういう学生はいっぱいいると思います。（私立大学、留学中断者）
- 私は、実際留学が中断になり急遽帰国を伝えられてから2日後に帰国になりました。急遽帰国に伴い必要になったお金は合わせるとかなりの金額になるかと思います。学校はそれを負担すると言いつつ、ほとんどは申請が通らなかったため、自己負担が多いです。また、帰国後すぐに家に帰ることもできず2週間自己隔離ということでホテルに泊まりました。自費です。加えて緊急事態宣言でアルバイトもできない。そんな学生たちに学校から留学した生徒に対する金銭面での支援は必要だと思います。（私立大学、留学中断者）

以上のように、留学予定者はこれからの留学資金に関する不安があり、特に、奨学金給付が決定した者については留学の権利を来年度などに持ち越す「既得権」を認めてほしいという希望があった。金銭的な不安と精神的な不安がリンクしている様子もうかがえる。経済的状況に起因するメンタルヘルスについても留学教育関係者は考慮すべきかもしれない。

3.5.5 情報提供の迅速性

大学等からの情報提供についても注文が多かったポイントである。

- 留学に関する情報提供を詳しく行ってほしい(それぞれの国の状況、現地の各大学の状況)。
(国立大学、留学予定者)
- 安全に現地へ行けるよう情報を常に教えてほしい。(国立大学、留学予定者)
- 命や健康が第一だと考えるので、留学中止の判断を行う際はできるだけ早く行うべき。状況を見て少しずつ決断を行うより、思い切った決断を素早く行うべきだと考える。(私立大学、留学予定者)
- ビザに関する情報をいち早く知らせて欲しい。また緊急ビザの取得可能日を2週間前では遅すぎるため、3週間前に早めて欲しい。(公立大学、留学予定者)

現在の各国の対応や状況を逐一伝えてほしいという要望があった。これについては、先が見えない現状では、迅速で正確な情報提供はかなり困難ではあるが、学生が不安に思っていることも確かである。交換留学等であれば、学生は大学発の情報を参考にする。不安な状況下では、学生に対して小まめな情報提供を行い、不安を軽減させる必要があると思われる。

4. 全体のまとめ

これまで、アンケート結果およびいくつかの記述回答を見てきた。ここから、日本人学生の留学への不安が浮き彫りとなった。多くが、卒業に向けてのタイムスケジュールや就職活動、そして卒業に向けての単位取得に不安を感じていた。また、留学の状況により、困っていることや要望に関して相違する傾向が見られた。まず(1)留学希望学生は留学や将来に対する漠然とした不安を感じているのだが、(2)留学予定学生は留学、就職活動、卒業の見通しがより具体的になっている分、留学か就職活動かの決断に悩んでいた。特に、彼らは留学を目指して英語スコアの獲得や面接準備等にコストをかけてきており、その努力が無駄になることへの不安と悔しさから「既得権」を訴える記述が目立った。(3)留学中の学生の回答からは、現地留學生活の不満や困難について知ることができた。そして、(4)留学を中断した学生は、帰国時の高額な航空機代と2週間隔離期間のホテル宿泊代に加えて、留学先の住居費も払い続けているなど大変な経験が重なり、金銭的・精神的な打撃が特に大きいことがうかがえる。

そして、紹介した回答者の事例から、今後留学教育関係者が主として交換留学を今後運営していく上で、どのような配慮が必要か、以下の4点にまとめる。

- ① 交換留学予定者には「既得権」に対する強い思いがあることを理解する
- ② オンラインによる単位取得など「学びの機会」の保障が求められている
- ③ 緊急時には想定外の出費が発生し、そういった重圧がメンタルヘルスにも影響しがちである

④ 留学中・留学前の学生に迅速な情報提供に努める必要がある

5. おわりに

以上、パンデミック状況下の留学希望学生、留学予定学生、留学中の学生、そして留学中断学生による生の声を紹介し、留学状況別の困難や必要とされている支援についてまとめた。

本アンケートからは他の学生対象アンケートと比較して、金銭問題より進路や学業に悩んでいる回答者の方が多く、当初の予想とは異なる結果となった。これは交換留学生からの回答が多かった本アンケートの事情も反映していると思われる。

学生からは「今後の学修についての相談をしていただきたい（国立大学、交換留学予定者）」、「政府も学校もルールに捉われた対応を取るのではなく、学生のことを1番に考えた対応を取ってほしい（私立大学、留学希望者）」という回答も寄せられ、特に留学予定学生および留学中断学生に対してできる限り一人一人への対応を誠実に行うことが期待されていることがうかがえた。これらはCOVID-19による混乱について交換留学生と同様に、もしくはよりシリアスに影響を受けている私費留学・学位留学および語学留学に参加する学生にとっては得がたいサービス（在籍大学からの支援）であり、大学国際化の鍵となる交換留学事業に学生を引きつけうる「強み」となりうることも十分に留意する必要があるだろう。今後の交換留学・大学交流の再活性化については、教職員が学生一人一人に寄り添っていくことが成功の鍵となるかもしれない。

そのような視点を持ちつつ、今後は、現在、日本の各大学が留学関連事項に対してどのような学生対応を行っているのか調査を実施したい。そこから、今必要な学生支援・教育および留学関連問題の解決策を探り、パンデミック収束後の留学交流の発展に寄与していきたいと考えている。

【引用文献】

Altbach, P. G., & de Wit, H. (2020) 'Post Pandemic Outlook For HE is Bleakest For The Poorest' International Higher Education Boston College Center for International Higher Education, Number 102 Special Issue pp. 3-5.

Marginson, N. (2020). Five years to recover global mobility, says IHE expert, Retrieved May 20, 2020, from <https://www.universityworldnews.com/post.php?story=20200326180104407>